

信濃川水系流域治水プロジェクトの着実な推進について

北信越部会提出

令和元年東日本台風の発生により、信濃川流域においては上流の千曲川で破堤し、長野市では甚大な浸水被害が発生しました。

また、新潟県内においては、大河津水位観測所で観測史上最高水位を記録し、約10時間にわたり計画高水位を超過するなど堤防は極めて危険な状態となりました。

現在、大河津分水路は令和の大改修が進められていますが、これらの被害を受けて、河川整備計画の整備目標の引上げに向けて事業計画の変更手続が進められていると伺っております。

あわせて、官民挙げて総力戦で挑む防災・減災対策として、流域治水プロジェクトが公表されており、計画の着実な推進が求められているところであります。

とりわけ、国内最長を誇る「日本一の大河」信濃川については、流域住民の生命、財産はもとより、日本の食を支える穀倉地帯をはじめとした豊かな農地を守るため、抜本的な治水対策が急務となっております。

よって、国においては、信濃川水系流域治水プロジェクトの着実な推進に向け、下記の事項について特段の措置を講じられるよう要望します。

記

1 抜本的な治水対策の推進について

治水対策の根幹となる大河津分水路「令和の大改修」により、信濃川水系全体の治水安全度が大きく向上することから、事業を早期に完了させること。

また、信濃川水系で堤防の決壊が起これば、その被害は計り知れないことから、堤防断面や河道断面の不足など、安全性が確保されていない箇所について、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」により、財源確保の上、着実な事前防災対策の推進を図ること。

2 流域治水の取組に係る支援について

関係機関で連携して、治水事業の推進に全力で協力するとともに、マイ・タイムラインの普及や水災害リスクを踏まえた防災まちづくり、田んぼダムの活用などの「流域治水」に取り組むことは急務であり、取組に必要な財政的・技術的な支援を行うこと。